

はじめに

何年か前に、「無縁社会」「公園デビュー」という言葉が流行りましたが、いずれも地域社会や家族関係での繋がりが薄れ、無くなっているわが国の状況を表していました。2年前の東日本大震災以降、地域社会などでの人と人との繋がりの必要性が再認識されていますが、この状況が変わったわけではありません。

子育てをする世代においても、仕事に追われる忙しい生活の一方、子育ての悩みを相談する人がいない、地域で話せる人がいないなど、親が孤立した子育てをしている状況があります。

今回実施した「“大津っ子”子育てアンケート その2」は、3年前に実施した「大津市子どもと子育てに関する保護者の意識調査」で調査対象とした乳幼児期の子どもたちが、就学年齢になった機会を捉えて、学齢期へのつなぎの時期の保護者のニーズや課題を把握しようとしたものです。

もともと、乳幼児期の健診や子育て支援、保育、療育に関わる職員の中では、学齢期へのつなぎが一つの課題となっていました。家庭、保育園、幼稚園などで過ごした子どもたちが小学校へ入学する際に、保護者がどのようなことに関心があり、不安を感じているのかを把握し、そこに焦点を当てた保護者の支援を行うことは、子どもと保護者の安定した学校生活を送ることに繋がります。

今回の調査で明らかとなった保護者の意識や課題について、今後、必要な具体的支援策を検討することになりますが、安定した学校生活に向けての支援が子ども人間性豊かな成長、発達に繋がることになればと願うものです。

最後になりましたが、前回の調査に引き続きご尽力賜りました奈良教育大学瓜生淑子先生をはじめ、アンケート調査にご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

大津市福祉子ども部
部長 鷺見 徳彦